

## 2025(令和7)年度 三同教活動の総括

三同教は、基本的人権の尊重、自由と平等を基調とし、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の解決をめざし、市民自らが主体となって人権尊重のまちづくりを進めることを目的に創立しました。

2025年は、戦後80年、阪神淡路大震災後30年の節目の年でした。また社会では、SNS上のフェイク情報や誹謗・中傷の蔓延などにより混乱している面もあり、部落差別をはじめとする「人権」について正しい判断力のもと、深く考える取組を推進し、研究大会や各地区の活動、専門部会の活動を展開しました。

実施に当たっては、「With(ともに) & Open(ひらく)」を合言葉に、市民が主体的に人権課題に取り組むことができるように、支援してきました。

以下、主な活動を取り上げ総括します。

### 1 学習から人権意識を高め人権感覚を磨き人権課題を解決する力を習得する活動

#### ①研究大会では

昨年度に引き続き、参加者の意見交流や討議の時間を充実させることでより深い学びにするために、四役打合せ会では討議テーマを明確にし、運営方法を確認しました。また、参加者同士の繋がりをつくり、課題解決意識が向上することで、各所属団体の活動につなげることができ、三同教の基盤を固めることができました。

また、特別分科会では、今年度の活動の柱の一つである「防災」について各関係者が集い考えることができ、参加者の交流を図り、三木市における今後の取組について考えることができました。

大会としては、事後アンケートに示されたように、参加者の満足度が高く、充実した学びの場にすることができました。課題としては、毎年の課題となっている幅広く参加者を増やしていく工夫など、さらなる改善が望まれます。

さらに、今年度は全人教研究大会で「こども日本語教室みきっず」が実践報告するなど、上部の研究大会にも積極的に協力参加しました。

#### ②専門部会では

各部会で、具体的な取組の実践報告を基に部員同士の交流を図るなど、新たな課題も取り上げ、学びを深めることができました。また、各部会では研修を充実させるための取組を行い、その記録を研究実践集に残すことができました。

#### ③地区研究大会や住民学習では

各地推協では、それぞれの特色を活かして住民の交流を図りながら、人権啓発に努められており、三同教もその支援として広報に力を注ぎました。

また、各自治会の住民学習では、多様な学習形態を活用して行われています。多くの地区で「子どもの人権」の学習が活発に行われ、改正児童福祉法の中で課題となっている社会的養護下の子どもやケアラーの理解を進めることにつながりました。課題としては、まだまだ若年層の参加が少ないことや参加者の固定化があり、さらに取り組みやすい学習形態の工夫を提供していきます。

#### ④じんけんフィールドワークでは

部落差別解消に関わる「水平社博物館」を訪問し、差別解消の意識向上に繋げました。また、神戸空襲戦跡ウォークも行い、新たに平和や人命の大切さについて考えることができました。アンケート結果では、2回とも参加者が現地での学びに満足された様子が伺え、深い学びができました。今後も、市民のニーズに合わせた企画を行い、人権課題への関心を高めていきます。

### 2 人権研修会などをサポートする活動

① 学習支援補助や講師依頼などの要請を受け、昨年度の実績を上回って効果的な支援ができました。この活動を周知し、各団体の人権研修を充実させていきます。

② 啓発ラジオ放送では、市内で活動される団体や個人など、さまざまな方に出演いただきました。今後も、人権課題を身近に感じてもらえるように企画をしていきます。

### 3 安心して暮らせる社会をめざす活動

市からの委託を受けた「インターネット差別書き込みモニタリング事業」は、差別書き込みの削除要請を行い、差別の拡散の抑止に努めました。さらに、この活動内容や成果を市民に発信していくことで、市民の意識向上につなげていきます。

1年の活動を通して、参加された皆さんの「一人一人を大切にしたい強い思い」を感じることができました。これは、三同教の活動の原点であり、これからも継承して新たな飛躍につなげていきます。以上、2025(令和7)年度の三同教活動の総括とします。